

[保険 / 自費]

- ※ 今回の治療を計画した時点で43歳未満であれば保険適用です (前回保険適用で全胚凍結した後の初回の凍結胚移植を除きます)。
- ※ 保険適用の治療周期では先進医療ではない保険適用外の検査や治療 (PRP療法、PGT、タクロリムス療法など) を併用できません。

1 FSHで卵胞を約18mmまで育てる

- 月経2～3日目から7日間FSHを自己注射します
 - ゴナールエフペン初回150単位、2回目以降125単位
 - ゴナールエフペン [] 単位
- 8日目以降は数日ごとに超音波検査を行い卵胞径が約18mmになるまでFSHとプロゲステンを継続します

FSH

3 GnRHアゴニストで卵を成熟させる

- GnRHアゴニストを21:00 (時間厳守) に点鼻します
 - プセレリン：両鼻に1回ずつ噴霧
 - ナサニール：片鼻に1回噴霧
- OHSSのリスクが高い場合はカベルゴリンを夜から8日間内服してください

GnRHアゴニスト



ピル

- 月経不順の場合は**プラノバル**を10日間内服して高温相の状態を作り、月経を起こさせます
[/ ~ /]

プロゲステン

- 月経2～3日目から**プロペラ錠** (1日2錠) を内服して排卵を抑制します
- 子宮内膜が排卵後の状態に変化して胚移植は行えないので全胚凍結します

2 プロゲステンで排卵を抑制する

4 採卵・採精

- 朝食を軽くとり、スリッパ、ナプキン、生理用ショーツを持参し、8:00に入院入口のインターホンで来院を伝えて2階ナースステーションにお越しください
- 精液を看護師に提出してください
- 【手順】 着替え→鎮痛坐剤を挿入→採血と点滴→採卵→病室で静養→昼頃に胚培養士が説明

PPOS法

※ 月経が始まったら凍結胚移植を計画できます。

